

追慕の辞

本日、筑波大学篤志解剖体慰霊式が挙行されるにあたり、解剖実習のために御献体くださいました方々に、医学群学生を代表して謹んで追悼の言葉を捧げます。

私たちは、御献体くださいました白菊会会員の皆様、並びにご遺族の方々のご厚意により、今年の五月末から六週間の解剖実習を行うことができました。

追慕の辞をこうして皆様の前で読む今、解剖実習が始まった時からおよそ四カ月近くが経っています。実習の初日、初めて御遺体を目にした時の今までの経験したことのない緊張感は今でも忘れられません。毎回実習の前後に黙祷が行われるたびに、身が引き締まる思いを感じ、それは実習を行って一カ月半途切れることがありませんでした。

解剖実習を通じ、私は医学類に入学して初めて、自分が医学の道に進んだ本当の意味を考えさせられました。そして、医師になるために特別に許された人体を解剖するという行為に、改め

て自分がこれから医師として背負う使命を感じ、また六週間という長い時間をかけて死と対面したことから、はじめて死とは何かを真剣に考えるきっかけが得られたように思います。

今回の実習を通して、模型やアトラスのような教材は人体の典型的な構造を示す「知識」に過ぎないんだと強く実感しました。私たちはその知識をたよりに、御献体くださった方々それぞれが持つ真実の人体を学ぶために、解剖実習を行ったのだと思います。そして、御献体くださった方が生前どのような方で、どんな人生を送ってこられたのか、またどのようなお気持ちで御献体をされたのかということについて思いを馳せながら実習を進めるうち、感謝の気持ち、自分の中に自然と生まれてきました。

白菊会の皆様の期待に沿えるよう、私は勉学に励み、人の気持ちを思いやり、他者の痛みを理解することのできる医師になるべく、医師としての心構えをつちかっけていきたいと思えます。

最後になりましたが、御献体いただきました方々のご冥福を心よりお祈り

申し上げますとともに、肉親の死に際し、悲しみや苦しみの中、御献体にご理解くださり、ご協力いただいたご遺族の皆様の計り知れないご厚意に改めて感謝申し上げ、追慕の辞とさせていただきます。

令和元年十月九日

医学群 医学類 二年

福井 篤

